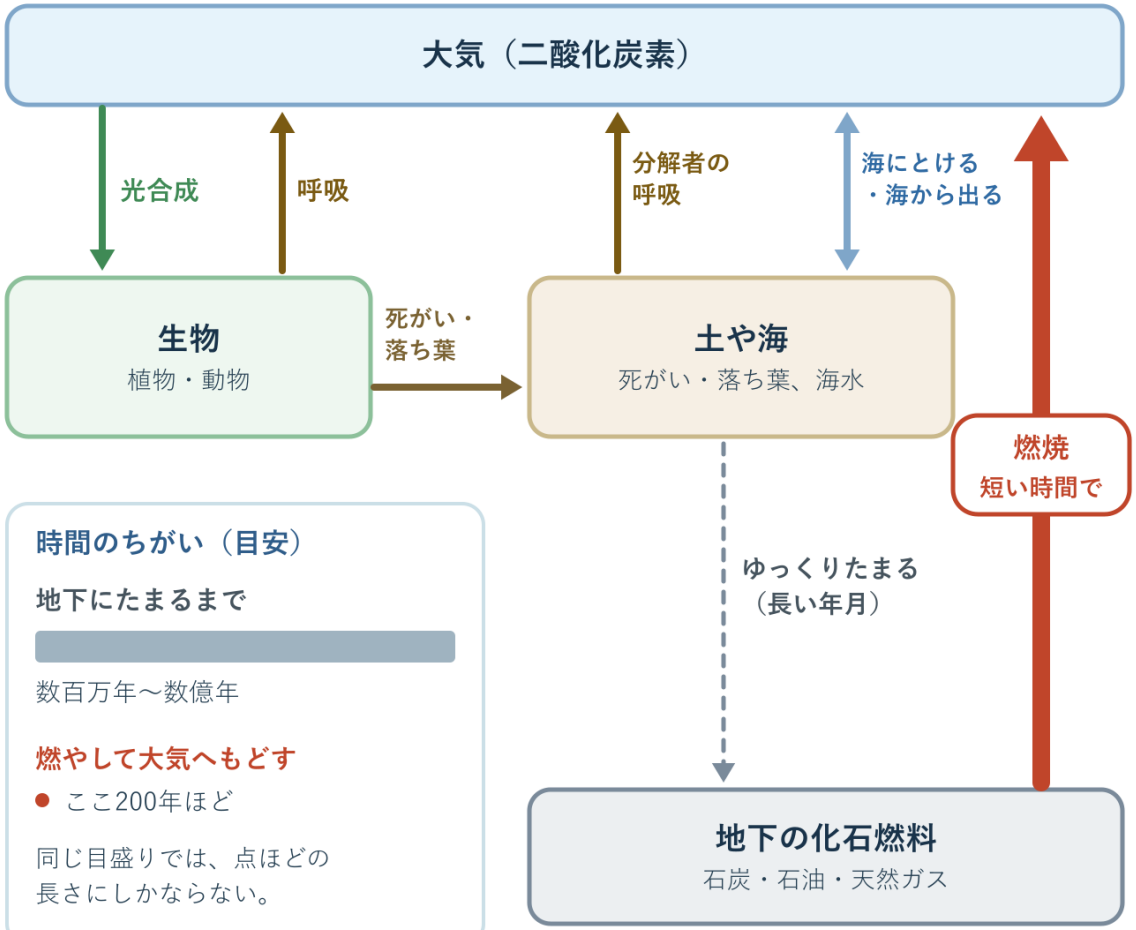
地下にたまった炭素が大気にもどると

化石燃料を燃やすと、炭素のめぐりのつり合いはどう変わるのだろう

① 炭素がたくわえられている場所と出入り



時間のちがい（目安）

地下にたまるまで

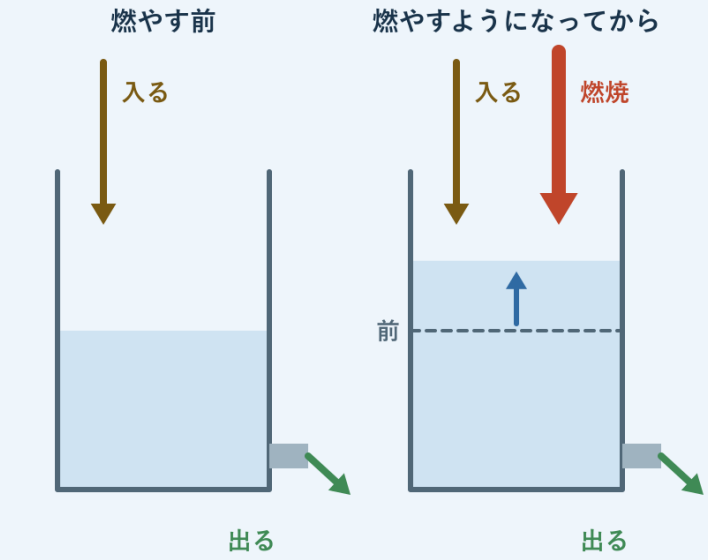
数百万年〜数億年

燃やして大気へもどす

- ここ200年ほど

同じ目盛りでは、点ほどの
長さにしかならない。

② 大気の炭素を水そうにたとえると



入る量＝出る量
→ 水位はほぼ一定

入る量＞出る量
→ 水位が上がる

入る：呼吸・分解・海から出る
出る：光合成・海にとける

水位が上がる＝大気中の二酸化炭素がふえる。
一部は海や植物に取りこまれるが、すべてではない。
二酸化炭素がふえると、地球温暖化が進む。

※ 模式図。矢印の太さや水位は量を表さない。時間は目安。